

名古屋大学中国語学文学論集第二輯 正誤表

頁数・行数

誤

正

130	94	93	90	74	66	16
1	10	16	13	5	3	6
		及時富雲浮 亦可高枕而臥也	口フノール湖		唐・賀知章「詠柳」 「不知細葉……」	『史記會注考證』 6

『史記會注考證』
唐・岑參「趙將軍歌」：「九月天山風似刀、城南獵馬縮寒毛、」
（「紛紛」補足）
唐・劉希夷「從軍行」：「天子廟堂拜、將軍凶門出、紛紛伊洛道、戎馬幾萬匹、」
口ブノール湖
及時富雲浮
亦未可高枕而臥也
（初盛唐期「苦吟」行為 挙例 補足）
詠詩剪刻省靜、用思尤苦。
（『河嶽英靈集』卷下・祖詠）
顯苦吟詠、當病起清虛。友人戲之曰、非子病如此、乃苦吟詩瘦耳。遂爲口實。

167 160 159

9 15 12 7

143 133 131

5 5 5

各爲容

錢起「江行無題」

同「送李秀才」

各爲容

二首削除

(「唐才子傳」卷一・崔顥)

(「憂苦・愁苦……」の意味内容における「苦吟」の使用例 補足)

唐著作郎顧況……暮年有一子、即非熊前身也。一旦暴亡、況追悼哀切、所不忍言、乃吟曰、……非熊在冥間聞之、甚悲憶、遂以情告冥官。皆憫之、遂商量卻令生於況家。三歲能言冥間聞父苦吟、卻求再生之事。

(「北夢瑣言」卷八)

「唐才子傳」

「唐才子傳」

粹内

本文中に指摘する(二三三四頁)けれども、

「唐詩紀事」
「唐詩紀事」
粹内
以下の本文において
指摘するけれども、